

利用環境WG（第二回）における構成員指摘事項の整理

議題	意見	対応案
ユビキタス ネット社会 の課題と取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各課題について、優先順位をつける必要あり。 ・ リスクの大きさ、質、経済的打撃などの違いを考慮すべき。 ・ 同じ課題でも、故意な場合と、知らずにやってしまう場合とがあり、この違いに配慮すべき。 ・ 技術的に対応できるものは民でも可能。懇談会では制度的、文化的な課題を主に議論し、政策に反映すべき。 ・ 互いに重なる課題もあるが、切り口の問題。次元が異なるので重なりを完全に取り除くのは難しく、大枠としては許容する必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「優先して取り組むべき項目」を整理するために、課題を社会的影響力の大小、対応の充実度の2つの軸でマッピング（資料7）
ユビキタス ネット社会 における権 利と責務に ついて	<p style="text-align: center;">「権利」と「責務」のワーディングに関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「責務」という語は強すぎる。「ルール」の方が理解しやすい。 ・ 供給者側は「責務」が良いが、利用者側は避けた方が良い。 ・ 「権利」よりも「権利利益」がふさわしい。責務が強すぎるのであれば、「責務役割」が良い。「目標」と「ルール」という案もありうる。 ・ 「権利利益」という法律用語を使うと、一般の人が理解できるか疑問。 ・ 「権利利益」は法律用語だが広く一般的に使用。「利益」では意味が広がりすぎる。「権利・利益」と「責務・役割」が良いのではないか。 ・ 自己責任の時代であるので、「責務」や「責任」でも良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ユビキタスネット社会における憲章」の中で検討（資料8）
	<p style="text-align: center;">「憲章」に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相反する権利と利益に関する考え方など、ユビキタスネット社会の憲法前文のような文章が必要ではないか。 ・ 情報の流通と保護の観点から、大きな流れを考える文章が必要ではないか。 ・ 「流通」と「保護」は重要だが、この2語だけで整理できるか疑問。 	
	<p style="text-align: center;">その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己責任の文化を浸透させるべき。学校教育などへの提言も視野にいれるべき。 ・ 「サイバー社会」の「権利」の部分で、供給者側のものとして、「国民に、より新しいサービスを提供していく」のようなものを入れてはどうか。 ・ 利用者側と供給者側についてのみ整理されているが、第三者にとってのものがない。例えば、新しい機器が登場した時の、その光と影という視点も必要では。 	